

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係技術援助(1) (昭和37年度)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43519

日米接衝の経緯(存米大争奪)

道路橋梁建設事業

路線名	位置	工種	数量	単価	金額	備考
源河有銘線	羽地村源河東村有銘	新設	2.300 ^m		\$ 81,000 29,160千円	29,160千円
13号	国頭村安波東村新川	改良	5,480		87,000 31,320	32,400
112号	名護町屋部村宇茂汪	舗装	3,300		124,000 44,640	47,880
3号	糸満町	"	2,000		75,000 27,000	27,000
13号	糸満町	"	1,840		46,000 16,560	16,560
13号	久志村大浦	橋	50		60,000 21,600	21,600
112号	屋部村屋部	"	25		23,000 8,280	7,200
11号	豊見城高安	"	15		20,000 7,200	7,200
112号	屋部村安和	"	8		9,000 3,240	
					\$ 525,000 189,000千円	189,000千円

秘

アジア局長

宇山審議官

北東アジア課長

沖縄出張報告書

昭和三十七年二月七日

北東アジア課長

命により、一月二十八日より二月一日迄沖縄に出

張した。その際、当方携行の昭和三十七年度沖縄

援助予算明細表(総額1001,250千円)を29日

キャロウェイ高井事務官に手交、予め検討を依頼

しておいた上、3/日午後米民政府においで

ア-ナ-顧問、シムツ副民政官、プライマス渉外部長

らと約3時間ばかり懇談を行った。概要次の

亜北 0392

外務省

とおり。

1. 先ず、当方より、上記明細表を基礎として、

明年度援助の30項目別金額と、予算査定

の基礎となつてゐる計画の計数的内容を一通り説

明の上、これら援助の実施方式としては

(イ) 現金贈与予定のもの (766,625千円)

(ロ) 現物贈与予定のもの (134,966千円)

(ハ) 日本政府が自己支弁のもの (121,657千円)

の3通りが考えられてゐる旨を述べ、なお

本計数は関係各省と大蔵省間の調整の結果

取り戻すもの(約)あり、琉球政府においてこれに基づき

GA-6

外務省

同政府の新年度予算編成準備を進められ、略
差支えなからべしと述べた。

次に、次いで下記6英につき意見交換を行
った。

(1) 米側より、ごまに辛山審議官より受領し
(注: "preliminary" と表示していた)
た援助予算一覧表と、本官携行の明細表

との差異(1項目追加の上、金額も若干
増加)につき理由を質問した。今次

明細表は、大蔵省と関係各省間の査定予算の

最終調整に基づくものであり、本表は概ね

のと述べたところ、その以外に、なんら

か、日本政府の留保予算なきやと質した。

(1) 関係各省の固有の沖縄関係事務費と

(2) その他報告後、日本折衝の状況により

はありうべき一般会計の予備金支出による

の場合、とを除き、かかる留保予算はない、

と答えておいた。

(3) 米側より、現金贈与の援助費目中、過

不足を生じた場合、項目間、流用可能性

如何と質問した。当方より贈与後の

資金の使用は米高等弁務官と琉球政府

の責任に属するが、本官限り、見解では、

各項目の本旨と損うような流用は問題とな

らないが、或項目で多少の余剰を生じた場

合他項目に移用することは可能と思うと

答えておいた。(この点につき帰任後特使

局と打合せたところ、同局はかかる場合

も日米の事前協議としてこの意向であら

うので、在京米大使館セクレタリー書記官にこの

旨補足説明して置いた。)

(1) 援助使用実績につき、日本政府が報告

を要求するや、この点については、要報告事

項は後日協議の上となるか、いずれに

せよこの種報告を必要とすべしと説明し

た。

(2) 米側より、援助実施は如何なる取極

め方法によるや、と質問あり、吾方より、項目

の性質別に次の3様式が考慮されてい

ると述べたところ、米側も別段異存は

なかった。

(1) 現金贈与の分は、特殊のもの(英^英育成資金

贈与)を除き、一括して総額と項目別

金額並に: 用途及び若干の条件を記し

た単一の文書取極めにした。

(2) その他、援助で、特定の特権、義務関係と規定する要ある項目

—— マイクロ建設、石垣島高層観測、指導教員派遣等

—— は夫々別個の文書取極めを必要

と考える。

(3) 上記を除き、既に双方で基本了解

が取極められているもの —— 技術、医療援助、南大東島高層観測等 —— は

基本了解の継続の確認のみで足りると

考える。

(4) マイクロ建設問題について ^は 双方より ^{米側} 米側 ^{同意} 同意する。

を貸したところ、^{在米}既に在米大使館に回

報済みと答えたので、関係文書、写しを要求

し、翌日これを受領した。

(1) 教育指導要員(30名)派遣の5年につい

ては、米側より、「キ」高等学務官の検討結果

として、

(1) 本件は1年毎に前年の成績を検討

して取極めを行う。(但し4ヶ年計画

の文部省の意向に反対ではない)

(2) 37年度は ^{日米関係} 30名の要請のところ、24名

と同意する。

(3) 派遣員、滞在費は全額日本側負担

担とする。

との条件で、^{日本側から}同意、~~意向~~なる旨提案が
ない、~~と~~と交換はしない

あったので、^本滞任後関係各府と協議の

上、各方の意見を回答すべしと述べて

置いた。なお本府より人員削減の場合、

滞在期間 2ヶ月の予定と / ~ 2ヶ月延長の

余地なきやを^{米側}負したところ、^{米側}考慮方を^約し

た。

9. (4) 最後に、^{米側}「^{米側}」高養育施設の要望として、日本

の結果、癩専門医で、刑法等に觸れ本土

用業不能となるようなものかあれば、^{偽り}

に相当の重罪犯であっても、^{9章}米側^{心あいて}轉^ミ下^に

据

この沖縄に誘致した旨提案があったので、

各方より、関係当局に^{在任要望を}伝えに上、検討してか

ることとしたし^と述べて置いた。

極秘

沖縄生誌報告

36-12-28 宇山

1. 本日は12月27日及び28日沖縄に生誌した。

那覇飛行場ではフライマス U.S. Civil Administration of the Ryukyus 連絡部長が吉原元、キアラウ

エイ高岸事務官が昼食及び夕食に招待し、その

間一ツ折りの時間は本館との会談に当てられた

意向であると伝えられたので、当方これを受諾した。

昼食には大田行政主事及び佐藤連絡事務部長も招待

された。このほか大田主事とは2回会談した。

2. 高岸事務官との会談要旨次の通り。(同席者は

佐藤系及びキアラウ政治顧問、^{通譯}所要時間約30分)

(1) 先ず当方より、本年2月キアラウエイ高岸事務官就

任以来今日まで沖縄に関する各般の問題に

ついていろいろ協議する機会が多かったが、お互に円滑

な了解に達した点について、高岸事務官の協力と

多としてお礼。去る6月池田ケネディ会談において

再確認された日米協力体制の一環として沖縄民

生向上のために両国が一層の協力を図ることに

なり、日本としては明年後半集約にその構想の一端

を盛り込むこととしたが、更に明後日はケネディ報告に

もどく米側の沖縄政策の策定もあるべく、今

後日米両国が確手たる見通しの下で、お互の立

場を尊重しつつ協力体制を漸次強化して行けば

所期の目的を必ず達成し得るべしと確信する旨

述べたことは、

高岸弁務官は、全然同意である、沖縄の国
 題は、従来の経済とか国際情勢との関係あり、
 かなり複雑であるが、池田サネダイ会談において
 成立した了解に立脚して日本両国が協力して行け
 ば、沖縄人の要望にも合致しつつ、両国の利益を
 増進し得ると思つてゐる。沖縄民生の向上につ
 いては多くの為すべきことがあり、今後とも日本政府の
 協力を得る必要があるが、自分としても日本政府の
 意向を十分尊重して行く考えであると述べた。

2. 次に当方より、日本政府としては、今明月中に

明年度予算案を確定する方針であることも前置して、

(イ) 対沖縄援助費総額 (内閣側提案 9億5千
万円) については、日本政府としては内政上の理由

により是非とも若干でも10億円を上回るものと

したいと考えることも述べたことは、

高岸弁務官は支那の事を浮べた時考えて

いたが、結局10億1百万円程度なら同意すると

述べた。

(ロ) 公共事業費 (農地護岸、道路建設、港湾等)

については当方の意見を述べたことは、高岸弁務官は

戦争中)

護岸は戦前よりかなり建設されてきたが、砲火の下

めひどい損害をうけており、この建設は沖縄農業の大

に必須のものであり、最も多くの人々を利益するもの

5.

であるから、最優先的に考えて貰いたいとおいた。

(1) 文教費中、沖縄教育指導主事の項目について、

当方より、先般小平総務長官の沖縄訪問の際

高岸弁務官より長官に対して従来の日本側のや

り方に不満は真々あるとおいた由であるが、調

査の結果、米民政府の提案中、沖縄の指導主事を

日本本土で訓練することを最重要事項として掲げ

(理由を添えることもない)

ているから、日本文部省がこれを拒否し、日本から沖縄

に指導員を派遣することを提案したのは、明ら

かに日本側の落後であるとおいた。今後

明年後

これらの両方を実施したいと考えているとおいたこと、

高岸弁務官は、さういふお考えなるこの項目を

6.

この項目については、

日本側予算に計上されることに同意する。(従来どおり)

日米間で「た」たかあったため、今後は実施前に

十分協議した上で、既期の目的を達成するようとし

たい。1960年及び61年に日本から指導員が来島

したが、米民政府としては必ずしも実効が得ら

なかったと見ており、明年後には事前の打合わせを

しっかりと行いたいと答へ、当方より、貴意にそうよ

取計らいたいと申しおいた。

(2) 南方同胞援護会を助けて行う援助について、

当方より、率直に申して米民政府は援護会の賛同するこ

とに多くの疑念をもつてゐるようであるが、この団体

は沖縄、小笠原、徳島等の福祉厚生団体として

超党派の支持により特別法を以て設置したものであり、いはば日本赤十字が一般的に行う事業をこれら地域にはこの団体が特別に強化した方式で行うとの趣旨による。従つて施政権の日本復帰の運動を行うが如きはこの団体が行い得ることはなく、もしかかる誤解ありとすれば此の機会に日本政府としてはその真意の保証を弁せ得る旨申上げた。このような次第であるから、同胞援護会を以て沖縄で行はせよとしてゐる慈善的事業については、明年迄は勿論、その後においても高井弁訪官が大方の理解を示し、支援せよと希望する所であらう。

高井弁訪官は、自分の着任前に南方同胞援護会が米民政府と十分協議するにせよに沖縄之事業を行ひ、殊に遺憾な結果を生じたにせよがある(此等精神病院建設の事例をあげて説明した)。しかしながら先般在米で新任の大連会長(早大総長、沖縄出身)がライシャロ大使と会談したか、自らも昨日大連氏と会談したほか、先般来島した吉田事務局長(戦後数年間外務省員だった)が米民政府各部長と種々打ち合わせにあり、援護会に関する疑問は解消したので、今後はうまく行くと思ふ。明年迄同会が行う事業については、自分は提案した點を全部に同意しておいたか、日本政府よりも同会に對し、沖縄にお

ける播渡事業については 米政府と事前十分な打合
を行うよう指導ありたことあり、 当方これに承諾
しておいた。

(その他、明年度の援助計画の個々の項目、

日本の輸入自由化より沖縄アライメントを除外す

る問題等についても話合ったが、報告は省略する。

3. 一般的印象次の通り。

(1) 去る6月の池田ケネディ会談をはじめ、10月ケセ

ニ沖縄調査団長との会談、今回の明年度予算中沖

縄援助費に関する交渉より受けた印象としては、母

米両国が、現在の国際情勢及び現在の日本政府の

一般方針にのみ、米國として沖縄に於ける施設

を行使せしめる体制は当方の間諜くとしても、沖縄民生
の水準を本土の相当県(佐賀、島根、徳島、高知)並みに
する方針を固める土音は、略、かたまりつつあるというこ
とがある。

上記のキャラウェイ中將との会談、最近在京米大使館

員との打合の間に察知し得たことによれば、ケセンの報

告はすでに大統領に提出され、近くわが方にも提出され

る由であるが、その中ケセンは 沖縄民生の向上のため

の社会保障制度の確立(恩給年金、健康保険、失業対

策等)と経済開発計画の確立、特に現地資本の不足を

補うために、日米両国が協力して行く必要がある旨

調査していることである。このことは 池田ケネディ会

議の際日本側が提出した書類の要旨と合致する。

(b) 今後の問題は、かかる方針を着実に実施し、適次

成果を挙げて行くことである。そのためには 外務省

各省をして 沖縄における諸問題を ~~至~~ の実情とその

対策を研究調査せしめ、その進展に応じて 対米

折衝をして行かねばならぬが、外務省としては、

差支り (a) 那覇南陸事務部長として 参事官級を任用

せると、(b) 北東アジア課南方班長に キヤリアーの 参

務官を置くことにより、今後 激増すると予想される

対米交渉に備えることが必要だと思ふ。

Recapitulation of Japanese Government's Economic Aid Budget
for the Ryukyus in FY 1962

Unit: Thousand yen

Item	Description	Appropriations	Formula of Assistance	
			Grant in Cash	Grant in Kind
I. Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office				
145-12				
1. Technical assistance	Dispatch of 21 Japanese technicians to the Ryukyus and training of 56 Ryukyuan technicians in Japan, each for 6 months	¥19,954 (\$55,428)	—	¥19,954 (\$55,428)
2. Medical assistance	a) Assistance to pay monthly salaries (\$206) of Japanese doctors dispatched to doctorless villages and dental technicians to the remote areas (¥22,540,000) b) Provision of funds for the purchase of two vehicles for mobile clinics (¥7,000,000) and necessary dental examination equipment (¥2,888,000)	¥32,428 (\$90,078)	¥29,888 (\$27,467)	— ¥22,540 (\$62,611)
3. Microwave supplies and equipment	a) Provision of microwave supplies and equipment by GOF (¥83,980,000) b) Expenses for field survey (¥447,000)	¥84,427 (\$234,519)	—	0*¥83,980 (\$233,278) ¥447 (\$1,262)

日 二 十 七 日 廿 五 月 記 帳 (手 帳)

Items	Description	Appropriations	Formula of Assistance	
			Grant in Cash	Grant in Kind
I 4. Model farm equipment and supplies	a) Expenses for field survey (¥395,000) b) Provision of agricultural implements and expendable goods for the farm (¥4,288,000) c) Expenses for repairs and others (¥2,358,000)	¥7,041 (\$19,559)	—	0*¥4,288 (\$11,911) ¥2,753 (\$7,647)
5. Construction of a fishery training vessels	Construction of the following type of vessel; Gross tonnage: 220 tons Construction cost per ton: (¥380,000) (¥27,388,000)	¥83,600 (\$232,222)	¥83,600 (\$232,222)	—
6. Establishment of an after-care facility for lepers	Construction of building and equipment necessary for the facilities (¥2,000,000)	¥29,388 (\$81,633)	¥29,388 (\$81,633)	—
7. Construction of retaining walls	Construction of retaining walls; Sea walls: 4 places (¥50,688,000) Farm land embankment: 4 places (¥42,174,000)	¥92,862 (\$257,950)	¥92,862 (\$257,950)	—
8. Land improvement	This project will be conducted at Shimajo-cho on Miyako Island and Komesu, Itoman-cho	¥31,193 (\$86,647)	¥31,193 (\$86,647)	—

Items	Description	Appropriations	Formula of Assistance	
			Grant in Cash	Grant in Kind
9.	Development of plans and initial survey for development of permanent port in Iriomote	¥2,500 (¥6,944)	¥2,500 (¥6,944)	—
	Boring at 6 places Survey of the sea Topographical survey	(¥1,050,000) (¥350,000) (¥650,000)		
10.	Construction of Light-house of Iiye Island	¥17,160 (¥17,667)	¥17,160 (¥17,667)	—
	Light-house Attached Structures Apparatus for self-generating electric power, etc.	(¥2,456,000) (¥1,077,000) (¥10,617,000)		
11.	Construction of a rescue boat vessel	¥88,623 (¥246,167)	¥88,623 (¥246,167)	—
	Gross tonnage: 130 tons Estimated cost: Hull Main engine Equipment	(¥6,282,000) (¥1,420,000) (¥1,160,000)		

Items	Description	Appropriations	Formula of Assistance	
			Grant in Cash	Grant in Kind
12.	Establishment of an upper air meteorological observatory on Ishigaki Is.	¥1,150 (¥12,306)	¥1,150 (¥8,911)	¥15,542 (¥15,397)
	(1) Construction cost: a) Observatory buildings b) Equipment for observation c) Lodgings d) Transportation cost, etc. Total	(¥1,800,000) (¥1,830,000) (¥1,800,000) (¥1,830,000) (¥35,608,000)		
	(2) Provision of consumptive goods to be used for observation after the establishment of the meteorological observatory (for 3 months)			
13.	Construction of roads and bridges	¥56,880 (¥158,000)	¥56,880 (¥158,000)	—
	a) Construction of road and bridges in the following: Road No.13 - width x length 6 meters x 1840 meters			
	b) Construction of bridges: 4 places--Tomigashuku-son Yabu-son			

Item	Description	Formula of Assistance	
		Appropriations	Grant in Kind
14. Fire fighting equipment	(1) Fire fighting Cars - - - 13 a) Big cars - 9 (Unit price: ¥1,334,000) b) Geep car - 1 (Unit price: ¥1,314,000) c) Mobile engine pumps - 3 (Unit price: ¥296,000) (2) Fire water tanks 63 (Unit price: ¥304,000) Net grant: (1) + (2) x $\frac{1}{2}$ = (¥16,554,000)	¥16,554,000 (¥45,983)	¥16,554,000 (¥45,983)
15. Land investment	Basic land survey to be conducted in the Okinawa Islands as follows: Item a) Triangular measurement 392 sq. metres b) Leveling measurement 100 sq. metres c) Lot numbering survey 150 sq. metres	¥18,656,000 (¥329,600)	¥18,656,000 (¥329,600)
16. Grant of fund to the Central Bank of Agriculture, Forestry and Fisheries	This fund will be loaned to proper industry in the Ryukyus such as pineapples, sugar, etc.	¥130,000,000 (¥361,111)	¥130,000,000 (¥361,111)

Items	Description	Formula of Assistance	
		Appropriations	Grant in Kind
B. (Aid projects through the Nampo-Doho-Enge-Kai)			
17.	Grant of Monetary aid for the purchase of text aid for students books and school supplies will be given to bereaved families with excellent school record through the Ryukyū Scholarship Association.	¥ 243,000 (¥ 675)	0 ¥ 243,000 (¥ 675)
18.	Welfare loan fund for "Mother and Child" families of their children's education, vocational training and medical care. This fund will be granted to the Okinawa Social Welfare Council.	¥17,200,000 (¥20,000)	0 ¥17,200,000 (¥20,000)
19.	Establishment of a vocational institute for physically handicapped people. This fund will be granted to the Okinawa Wounded Veterans' Association.	¥4,275,000 (¥11,875)	0 ¥4,275,000 (¥11,875)
20.	Distribution of text-books, etc. to poor pupils of elementary and lower secondary schools	¥18,486,000 (¥51,350)	0 ¥18,486,000 (¥51,350)

Item	Description	Appropriations	Formula of Assistance		At the expense of GOJ
			Grant in Cash	Grant in Kind	
21.	Contribution of medicines for treatment of Leprosy	¥2,520 (\$7,000)	—	0 ¥2,520 (\$7,000)	—
B. Ministry of Education					
22.	National Government scholarship program	¥29,785 (\$82,736)	—	—	¥29,785 (\$82,736)
23.	Donation to Ryukyuan scholarship fund	¥20,000 (\$55,556)	¥20,000 (\$55,556)	—	—
24.	Dispatch of 5 professors to the Ryukyuan University	¥ 341 (\$ 947)	—	—	¥ 341 (\$ 947)
25.	Dispatch of Japan instructors for retraining Ryukyuan teachers	¥ 8,227 (\$22,853)	—	—	¥ 8,227 (\$22,853)
26.	Training of Ryukyuan teachers in Japan	¥ 6,006 (\$16,683)	—	—	¥ 6,006 (\$16,683)
27.	Dispatch of Japanese lecturers for teachers' seminar	¥4,239 (\$39,553)	—	—	¥4,239 (\$39,553)

Items	Description	Appropriations	Formula of Assistance		At the expense of GOJ
			Grant in Cash	Grant in Kind	
28.	Training in Japan of the Ryukyuan University professors	¥553 (\$1,536)	—	—	¥553 (\$1,536)
III. Ministry of Welfare					
29.	Hospitalization of Ryukyuan tuberculosis patients in sanatoria in Japan	¥16,812 (\$46,700)	—	—	¥16,812 (\$46,700)
IV. Ministry of Transportation (Meteorological Agency)					
30.	Expenses for upper air meteorological observation at Minami-Daito	¥20,150 (\$55,972)	—	¥20,150 (\$55,972)	—
Total					
		¥1,001,250 (\$2,781,250)	¥744,627 (\$2,065,408)	¥134,866 (\$374,906)	¥121,657 (\$337,936)
			899,593		

Items	Description	Formula of Assistance	
		Appropriations	Grant in Kind
		# 732,909	# 429,980
		(# 2,035,858)	(# 82,278)
		0 111,718	0 104,986
		(# 32,550)	(# 27,628)

Note: # This amount represents financial assistance to GRI
 0 This amount represents financial assistance to Organizations other than GRI

中央機關撥助費總額

1. 撥助費

1001111249

2. 補助關係撥費

5836749

內 容

行政事務處理費
 租稅事務所經費
 南河川能撥助金送費
 身分證明書送給經費
 自給及自運散特經費
 撥助行政機關事務費
 送還者級經費
 遺骨處理經費
 刑場廢物檢査給與事務費

128549
 2184
 2482 / 1150
 5865
 5426
 3910
 99
 989
 1347
 2408
 58367
 58367

計 總額 58367

(甲) 心博費 地方 小 並原關係各費 扣除

3. 刑水東島系組團申請耗費

2015099

(注) 每年撥助費經費 2.12 送還者 1 = 計 2120.13

4. 埋心補助費 送還者 1 = 53 減 (29%)

2467949

表 列 計

107539249

91824
 26973

文 部 省

昭和37年度 沖縄関係 概算要求			備 考	
事 項	36年度予算額(細)	大抵査定額		
○ 国費沖縄学生招致	25,768	29,785 ⁽⁴⁾ ✓		
○ 国費沖縄学生給与	24,402	27,583	学部 276人 大学院 12人 インター 8人 計 296人	学部 1ヶ月 月 7,500円 不研究 月 11,500円
○ " " 学生経費	1,362	2,138		
○ " " 厚生補償費	4	64		
○ 沖縄現職教員両教育講習会講師派遣	8,227	8,227 ✓	33人	40日以内
○ 琉球大学への教授派遣	341	341 ✓	5人	3ヶ月
○ 沖縄教員内地派遣研究教員()	5,747	6,006 ✓	35人	6ヶ月 2回
○ 沖縄奨学資金援助金	20,000	20,000 ✓	各校 特別奨学金	月 3,000円
○ 琉球大学教官内地研修	0	553 ✓	文部 1人 6月 月 11,500円 3人 理科 4人 10月	
○ 沖縄の教育指導委員派遣	0	14,239 ✓	30人	4ヶ月
× 沖縄婦人内地教育研究活動援助金	0	5485 ×	11人	1回以内
× 沖縄青年活動費援助金	0	319 ×	11人	20日以内
計	60,083	80,016 ()		

36.12.28.
国際文化課

文 部 省

冲縄県政援助費

特別地域建設

項目	年度	予算	決算	未済額	査定額	備考
総理府団体						
① 医療科 診療補助	9208	25215	12260	22540	無医村医師15人の派遣費	
② 医療科 診療補助	0	11950	11950	9333	博覧場建設2台機材等(委託)等	
③ 医療科 診療補助	1844	32772	10954	29223	本土建設科調査員5人の派遣費 2名建設科調査員5人の派遣費	
④ 医療科 診療補助	2793	29346	4711	10226	建設費調査員等派遣費 機材等	
⑤ 医療科 診療補助	92487	24427	23444	24427	2年度分経費	
⑥ 水産科 漁船建造	0	109700	0	22600	建造費補助等	
⑦ 水産科 漁船建造	0	122344	0	29322	建設費補助等 及調査員等	
⑧ 水産科 漁船建造	0	252684	252684	92762	建設費補助等	
⑨ 農業科 農機具	0	101225	0	21193	建設費補助等	
⑩ 農業科 農機具	0	44124	0	0		
⑪ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑫ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑬ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑭ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑮ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑯ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑰ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑱ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
⑳ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
㉑ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
㉒ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
㉓ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
㉔ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
㉕ 農業科 農機具	0	22000	22000	2500	調査費	
計	141462	2292706	294568	205767		

项目	2013年	2014年	本期	至定项	备注
南方同能促进会捐款					
(17) 壹见育英基金	243	400	0	243	育英基金捐助平
(18) 母子福社资金	0	2200	0	2200	250 世平社对子福社资金
(19) 身体障害者授産施設子	0	4600	0	4275	
(20) 阪科高生奨励会	0	25389	0	12236	贈与賞補助平台
(21) 八二七二大病児対策	2520	26220	0	2420	薬品購入費
保育	0	26670	0	0	
対絶育少年不-人建設費	0	24500	0	23220	新日本大産業建設経費
X 社 重	0	2000	0	252	
小室庫助産院送迎補助費	146	6807	0	22449	
合計	2909	99086	0	32959	
合計	104371	2229281	792558	924226	
文部省関係	24442	30724	24401	29785	196 奨学金生計30名
(22) 奨学金	20570	96534	20570	20020	450 的 高生計11名 全費
(23) 私立大の 奨学金	341	3850	340	341	本土教員への 奨学金
(24) 私立大の 奨学金	8227	8294	8227	8227	本土教員 35 40 的 奨学金
(25) 私立大の 奨学金	4727	7227	4738	4706	私立大の 奨学金 70人 (社社計120名)
(26) 私立大の 奨学金	0	251469	0	0	
青年指 奨学金	0	29300	0	0	
(27) 教育指 奨学金	0	17027	0	1427	本土教育指 奨学金 30名 全費
(28) 私立大の 奨学金	0	1426	0	443	私立大の 奨学金 11名
青年指 奨学金	0	330	0	319	1914 604
私立大の 奨学金	0	446	0	526	117 1111
教育指 奨学金	0	249	0	0	100 9250
合計	58717	423936	58706	800116	
(29) 国立療養所 院	0	20599	0	1872	1000 養老院 入所 463 名 施設費
合計	203078	2909276	943264	1001554	10221704

2013年度 4月 1日
 2014年度 4月 1日
 994 452
 994 452
 1014604

99694
 + 3850
 3869
 9969
 3385
 13354

在米大使館に直報のと

アメリカ局長	アジア局長
参事官	宇山審議官
北米課長	北東アジア課長

日本政府の昭和37年度対沖縄
経済援助に関する件

昭和37.1.29
北東アジア課長

本件援助予算(直接援助総額10億125万円)に
関し、その援助内容を示す別添(1)の英文資料を作
成したため、当方は1月27日在京米大使館サクレ書
記官に対し同資料を手交して、本内容を説明し
た。(なお、本内容については、高島調査官の沖縄
訪問に際し同調査官より米民政府に直接説明せし
めたい旨、申入れておいたところ、同書記官はこれを

了承した。) 上記、日本政府の援助予算は琉球
日本政府が^{自国}同援助費^{同予算を一部}を使用して援助するものと
琉球政府^(及び同政府)以外、団体に対し、財政援助及至施
設援助を行うものとに区分される。その概要を本
せば以下のとおり。

1. 沖縄援助と~~する~~ 日本政府^{自国}において~~同~~
~~使用~~する至費 ￥121,657,000
(#337,936)

2. (1) 琉球政府に対する^物財政援助額
(同政府1965年度~~予算~~^{予算}に繰入られたる額)
￥732,909,000
(#2035,858)

(2) 同政府に対する施設物援助額 ￥27,980,000

(# 23,278)

(1) 琉球政府以外、団体に対する財政的援助額

¥ 11,718,000

(# 22,550)

(2) ~~琉球~~ 琉球政府以外、団体に対する施設物援助額

¥ 104,986,000

(# 291,628)

総計 ¥ 1,001,250,000 (# 2781,250)